

北総鉄道の「運賃値下げの可能性の検討に着手」表明について

2021年6月23日

北総線の運賃値下げを実現する会（北実会）

北総鉄道は6月23日に開いた株主総会で、印西市長、白井市長の運賃値下げを求めた質問に対して、「運賃値下げの可能性の検討に着手する」と回答しました。これまで頑なに運賃値下げを拒否し続けていた同社が、一昨年頃から印西市・板倉市長の機会ある毎の要請に対して、それに応える姿勢を見せてはいましたが、公式の場で室谷社長が明言したことは、沿線住民の悲願である運賃値下げに向けての画期的な第一歩と言えます。

私たち北実会は、毎年、同社の株主総会に際して、千葉県と沿線6市の首長が株主総会に出席して運賃値下げ発言をするように申し入れてきました。今年も千葉県知事と6市の市長にその旨の要請をしてまいりました。報道によると、6月23日の県議会において、熊谷知事から、同社社長の「運賃値下げ検討」の意向が紹介されたとのことですが、大株主の千葉県が、前森田知事による住民の願いに冷たい態度を一変し、北総線運賃値下げに積極的に関わろうとする姿勢の表れとして、私たちは強い期待を表明いたします。

北実会は、結成以来22年、沿線住民の悲願を背に、裁判などの市民運動等と連携しながら、事態の進展が全く見えない中でも、「北総線の運賃値下げ」の声をうまざたゆまざ上げ続け、国・県・京成電鉄が複雑にからみあって構成している北総線をめぐる不当性・不合理性を暴き出し、その是正による運賃値下げの道を、住民の中へ、各関係方面へと訴え続けてきました。

今回の会社の決断は、親会社・京成電鉄による線路使用料などの不当・不合理な扱いを続けながらも、抜群の業績改善により累積債務解消をみるようになったことで、これまでの言い訳が通用しなくなった結果とみられます。「運賃値下げの可能性の検討に着手する」とは言え、値下げの範囲やその幅、値下げ時期等まだ何も決まっていません。値下げ範囲やその幅は目先をごまかすだけのものであってはならず、生活の中で実感できる大幅値下げでなければなりません。そのためには、北総鉄道の経理の範囲内の検討でなく、千葉ニュータウン住民の都心への足として発足した当初の理念の実現、今日の成田空港アクセス線としての利用の在り方の見直しなど幅広い視野から、国・県・京成電鉄が共同して、地域住民が納得できるように、北総線の現在の仕組みの抜本的な再構築が必要です。

これからが正念場です。千葉県・熊谷知事は私たちの要請に対して、北総線運賃問題に関しプロジェクトチームをつくっての検討を約束しています。沿線自治体においても、かつての印西市・白井市の「北総線運賃問題対策協議会」のように、検討機関をつくって、運賃値下げで千葉ニュータウン地域が発展し、住民に親しまれる北総線にするための知恵を出し合うことを望みます。

私達北実会もひきつづき京成本線並みの運賃をめざしてがんばります。住民の皆さん、力を合わせていきましょう。

以上